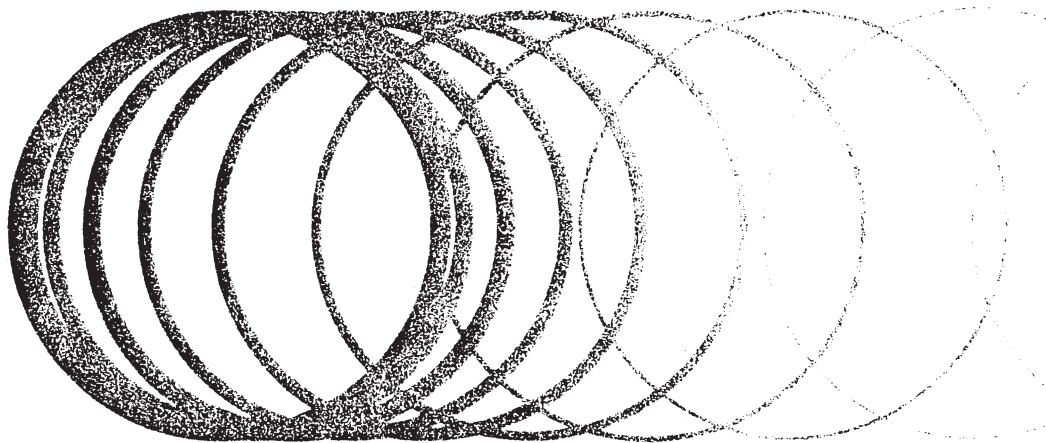




ヘルメットをかぶろう

●安全運転を心がけよう ●正しい方法で安全運転をしよう

取扱説明書をよく読んで
安全な運転をしましょう。



ホンダ モト・ Z50J 取扱説明書

ホンダモンキーZ50Jをお買いあげいただきありがとうございました。
この取扱説明書には、ホンダモンキーZ50Jの正しい取扱いかた、簡単な点検の方法、安全な運転の仕方などについて説明してあります。
より快適に、より安全にお乗りいただくために、この説明書をぜひお読みください。
又、整備手帳、セーフティポイント（安全にお乗りいただくためのアドバイス）も是非お読みください。

お車や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいたホンダ販売店または下記の〈ご相談窓口〉にお気軽にお申しつけください。
なお、ホンダサービスの各地区センターでもお受けいたしております。

名	称	電 話 番 号	郵便 番号	所 在 地
株式会社ホンダサービス	北海道業務室お客様相談窓口	011(261)2073	060	北海道札幌市中央区北一条西7-1 〈本田技研工業(株)北海道支店内〉
株式会社ホンダサービス	東北業務室お客様相談窓口	0222(24)6002	980	宮城県仙台市土樋1-11-2 〈本田技研工業(株)仙台支店内〉
株式会社ホンダサービス	北関東業務室お客様相談窓口	0272(61)0335	379 -21	群馬県前橋市上長磯町 314 〈(株)ホンダサービス前橋センター内〉
株式会社ホンダサービス	南関東業務室お客様相談窓口	03(486)6271	150	東京都渋谷区神宮前6-27-8 〈本田技研工業(株)東京支店内〉
株式会社ホンダサービス	中部業務室お客様相談窓口	052(251)7651	460	愛知県名古屋市中区千代田1-7-2 〈本田技研工業(株)名古屋支店内〉
株式会社ホンダサービス	近畿業務室お客様相談窓口	06(312)0151	530	大阪府大阪市北区南扇町7-31 〈本田技研工業(株)大阪支店内〉
株式会社ホンダサービス	中・四国業務室お客様相談窓口	0862(41)4446	700	岡山県岡山市西長瀬字中須加 221 〈(株)ホンダサービス岡山センター内〉
株式会社ホンダサービス	九州業務室お客様相談窓口	092(271)2020	812	福岡県福岡市博多区祇園町8-7 〈本田技研工業(株)九州支店内〉

- ・所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。
- ・ホンダサービスの各地区センターにつきましては別冊“整備手帳”の住所一覧をご覧ください。

ご乗車の前に

お買いあげになりましたら、販売店にて「取扱説明書」「整備手帳」「セーフティポイント」を受け取り、下記の説明を受けてください。

- ★お車の正しい取扱いかた
- ★保証内容と保証期間
- ★車両受領書・保証書受領書記入・捺印
- ★点検・整備について

●改造にはご注意ください。

車の構造や機能に関係する改造は、縦横性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は、法律に触れることは勿論、車の保証を受けられないので改造はしないでください。

- 車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。

車に乗る時、いつも心がけなければならない重要な注意事項を書いた「安全項目ラベル」が車に貼ってありますので、これらの注意をいつもお守りください。

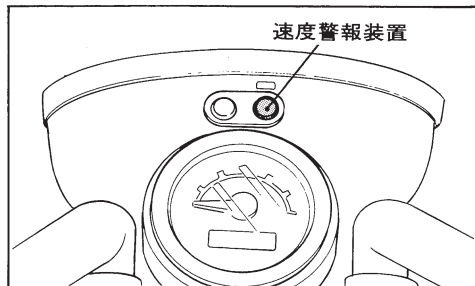
- ヘルメットをかぶりましょう。
- 法定速度を守りましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。
- 定められた点検整備を励行しましょう。

- 車両の仕様、その他変更により、本書の写真および絵が実車と異なる場合がありますのでご了承ください。
- モンキーZ50Jは、1人乗りです。2人乗りは、安全上からもまた、法律でも禁止されています。2人乗りはやめましょう。

あなたのお車には運輸省の指導により、スピードメータ部に車の速度が30km/hを越えると注意をうながす速度警報装置(点滅式)が装備されています。

運転に際しましては下記の内容を十分ご理解のうえ、正しい取扱いと安全運転を心がけてください。

- あなたのお車の法定最高速度は30km/h。
- 2人乗りはできません。
- ルール・マナーを守って安全運転を心がけましょう。
- お出かけ前の点検をお忘れなく。
- 定期点検は、必ず受けてください。
- 「セーフティポイント」をよくお読みください。



■目 次

各部の名称	6	走りかた	20
各部の説明と取扱い	8	ブレーキの使いかた	22
オドメータ	8	注意事項	23
ヘッドライトのつけかた	8	運行前点検・定期点検	24
ウインカスイッチの操作	9	運行前点検	25
ハンドルロックのかけかた	10	前日の異状箇所の点検	26
ヘルメットホルダの使いかた	11	ブレーキの点検	26
メインスイッチ	12	タイヤの点検	27
フューエルコックの取扱い	13	エンジンオイル量の点検	29
ガソリンの補給	14	燃料の量の点検	29
持ち運びするときは	15	灯火装置、方向指示器の点検	30
携帯工具の格納場所	17	後写鏡の写影の点検	30
正しい運転操作	18	自動車番号標(ナンバープレート)	
エンジンのかけかた	18	の汚れ・損傷の点検	30
チェンジのしかた	19	反射器の汚れ・損傷の点検	30

6 か月点検	31
かじ取りホークの点検.....	32
ブレーキの点検.....	33
タイヤの点検.....	35
バッテリー液量の点検.....	37
クラッチの点検.....	38
ドライブチェーンの点検.....	39
エアクリーナエレメントの点検.....	40
エンジンオイルの点検.....	41
燃料漏れの点検.....	42
灯火装置、方向指示器の作用の点検.....	43
シャシ各部の給油脂状態.....	44
簡単な整備	45
ブレーキレバーの遊びの調整.....	46

ブレーキペダルの遊びの調整.....	47
バッテリー液の補給.....	48
ヒューズの交換.....	49
エアクリーナエレメントの清掃、交換.....	51
エンジンオイルの補給.....	52
ドライブチェーンの給油.....	54
ケーブル類のラバーブーツの点検	55
故障のときは	55
主要諸元	56
サービスデータ	58
配線図	巻末

■各部の名称

ブレーキレバー

ライティングスイッチ

タンクキャップ

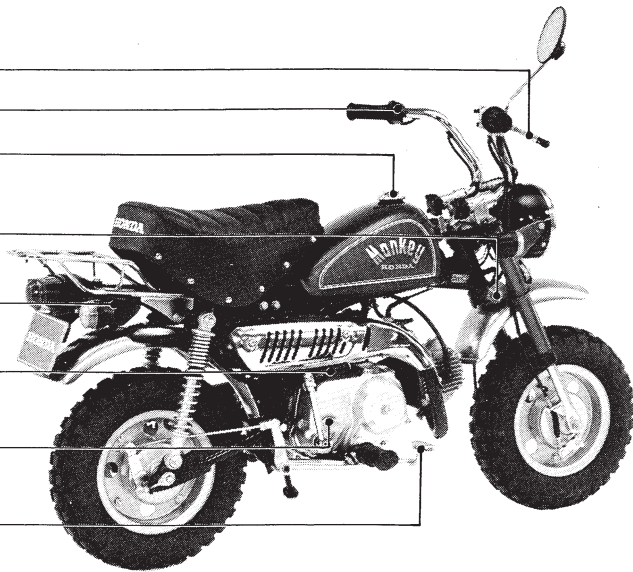
ハンドルロック

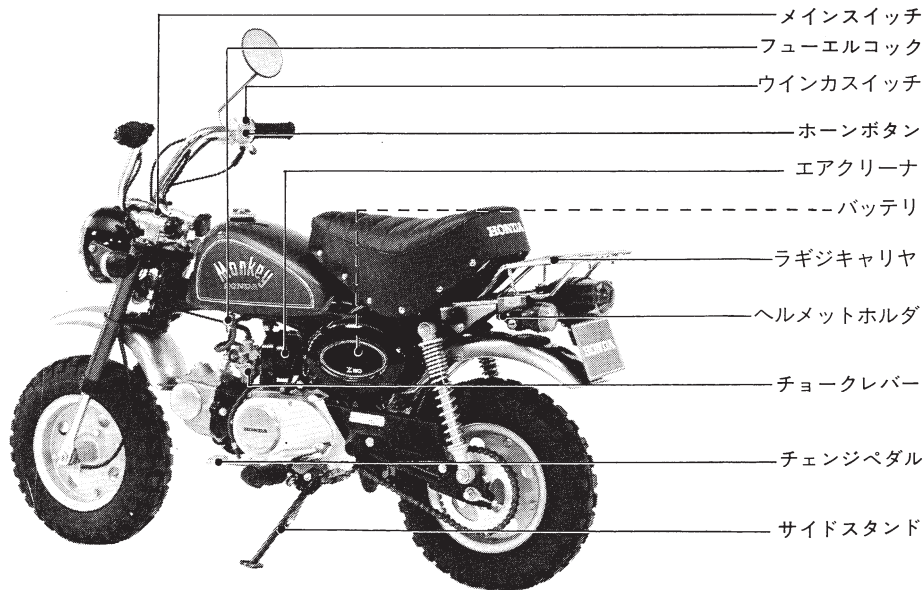
ツールボックス

キックスタータペダル

オイルレベルゲージ

ブレーキペダル





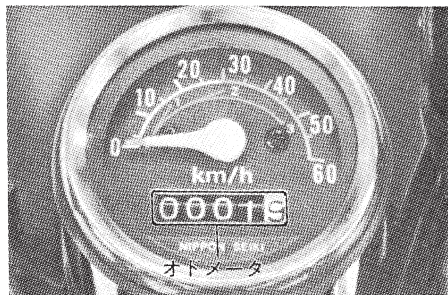
●-----は見えない部分を示します。

●ラギジキャリヤへの荷物搭載は、5.0kgまでです。

■各部の説明と取扱い

●オドメータ

走行した総距離をkmの単位で示します。
白地に黒数字は100mの単位です。

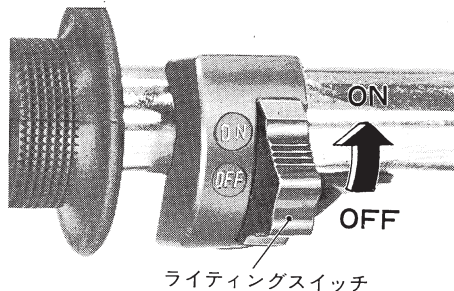


●ヘッドライトのつけかた

エンジンをかけて、ライティングスイッチを
“ON”にすると点灯します。

注意

エンジンが停止しているときは、ヘッドラ
イトは点灯しません。



●ウインカスイッチの操作

右左折するときや、進路変更する場合にはウインカで合図します。

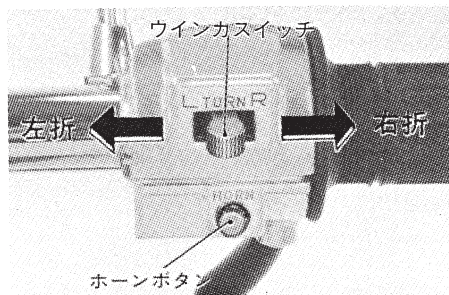
《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にして、ウインカスイッチで行ないます。

R……右折 L……左折

注意

- ・バルブ(電球)は、正規のボルト、ワット数以外のものを使用すると、ウインカが正常に作動しなくなります。必ず正規のボルト、ワット数のものを使用してください。
- ・ウインカスイッチは、自動的にもとに戻りません。
使用後は、必ずもとに戻してください。



●ハンドルロックのかけかた

盗難予防のため駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。

《かけかた》

ハンドルを左に切り、ピンをフレームボデーの穴に合わせ、ロックにキーを差し込み180°右方向に廻しキーを抜きます。

注意

- ・ハンドルが確実にロックされているかハンドルを左右に動かして確認してください。
- ・交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。

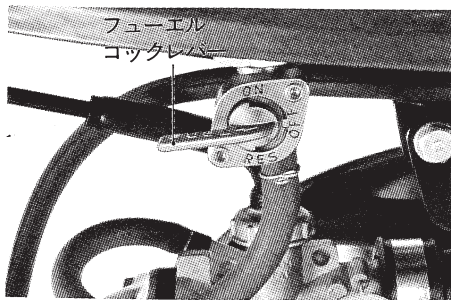
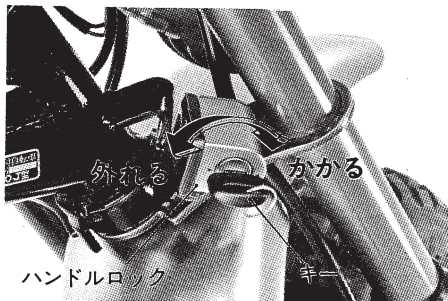
駐車するときは、フューエルコックレバーを“OFF”にする習慣をつけましょう。

《外しかた》

キーを左に廻してロックを外します。

注意

- ・走行前はロックの外し忘れがないか、ハンドルを左右に切って切れ角が左右均等であるか確認してください。



●ヘルメットホルダの使いかた

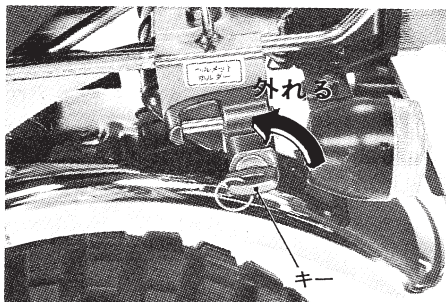
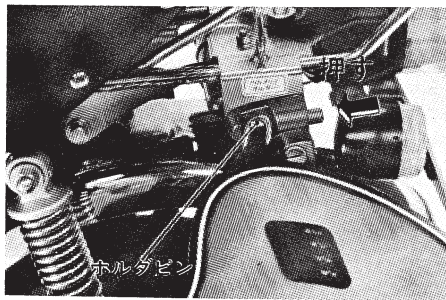
ヘルメットホルダを利用しますと、車を止めたときなどヘルメットを持ち歩く必要がありません。また、ロックができますから盗難を予防します。

《使いかた》

- ・ヘルメットの金具をホルダピンに吊します。
- ・ホルダピンを押してロックします。
- ・外すときは、メインスイッチと共用のキーで行ないます。

注意

ヘルメットをヘルメットホルダにつけたまま走行しないでください。つけたまま走行すると、車の部品に損傷を与え後輪の回転を妨げることもあり、ヘルメットに損傷を与え機能を低下させます。



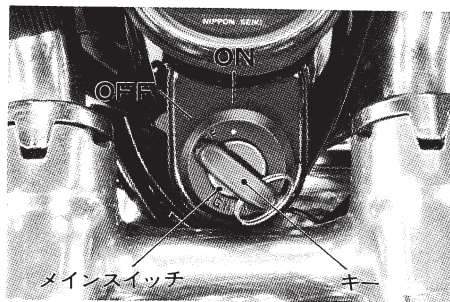
●メインスイッチ

メインスイッチは、電気回路の断続を行ないます。

キーの 位 置	作 用	キーの 着 脱
ON	始動，昼・夜間走行	抜けない
OFF	停 止 (電気回路は全部遮断する。)	抜ける

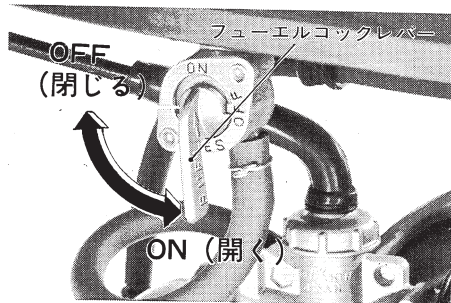
注意

- ・車をはなれるときは，必ずキーを抜いてお持ちください。



●フューエルコックの取扱い

- ON**……キャブレータにガソリンが流れます。
乗車するときは、レバーをこの位置に
します。
- OFF**…ガソリンが、止まります。
乗車するとき以外は、レバーをこの位
置にします。
- RES**……予備燃料です。(容量は約1.0ℓです。)
“ON”で走行中燃料がなくなったら
この位置にします。
早目にガソリンを補給してください。
補給後は“ON”に戻してください。
戻し忘れると、燃料がなくなり走行
できなくなります。



図は“ON”の状態を示します。

●ガソリンの補給

タンクのキャップは、左方向にまわすと外れます。

ガソリントank容量は、5.0ℓです。

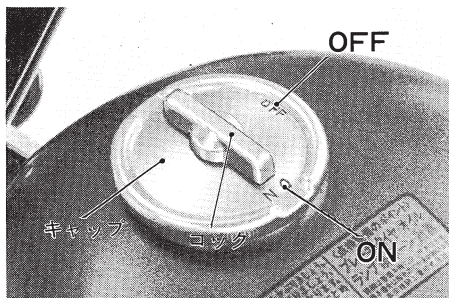
無鉛ガソリンを使用してください。

ON……ガソリンがキャブレータに流れます。
乗車時に使います。

OFF…ガソリンがキャブレータに流れません。
横積みするときなどに使います。

注意

- ・補給は、火気厳禁で行なってください。
- ・必ず、エンジンを止めてから補給してください。
- ・ガソリンは、タンクの口元いっぱいまでに入れないでください。
- ・キャップは、止まるところまで確実にまわしてしめてください。完全にしまっていないと、走行中にゆるんでガソリンがにじみでるおそれがあります。



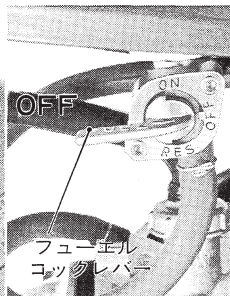
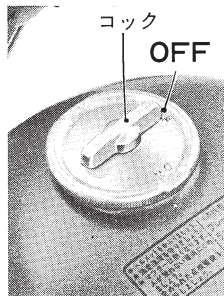
●持ち運びするときは

1. タンクキャップのコックを“OFF”にします。
通気孔からの燃料洩れが遮断されます。
2. フューエルコックレバーを“OFF”にします。
3. キャブレタのドレンコックを開いて、ガソリンを抜き、ドレンコックを閉じます。

注意

火気厳禁で作業してください。

4. バッテリーを外ずして垂直な状態に保ってください。
- ・ L サイドカバーを外します。
 - ・ ヒューズクランプよりヒューズケースを外し、配線カプラを外し、バッテリーバンドを外し、バッテリーを取外します。(バッテリーのブリーザチューブは、バッテリー側で外しておく、後で組立てるとき容易に作業できます。)
 - ・ バッテリー液がこぼれないように、平らに置きます。



5. ノブをゆるめてハンドルを折りたたみます。
折りたたんだらノブを締め、ハンドルをしっかりと固定します。

注意

- ・ハンドルを折りたたむとき、ワイヤー類のかみ込みのないように注意してください。

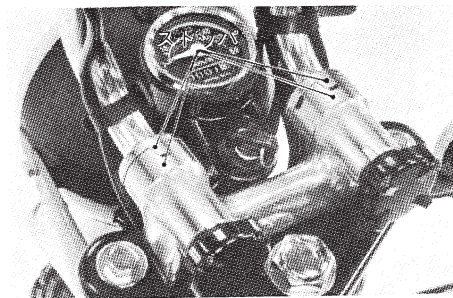
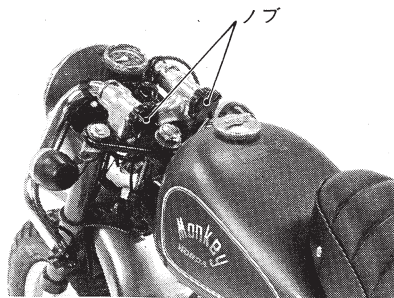
6. 横積みするときは、マフラ側(右側)を上にしてください。
また、ライティングスイッチ、チェンジペダル等を、厚地の布等で確実に保護してください。

《組立ては》

組立ては、取外し・折りたたみの逆の手順で行なってください。

特に次の点にご留意ください。

- ・バッテリーのブリーザチューブは、コーションマーク通りに配管してください。
- ・ハンドルは、ストoppaを確実に噛み合わせ、ノブをしっかりと締めつけてください。
- ・各部のガタはないか、確認してください。



●携帯工具の格納場所

シートの後方に、ツールボックスがあります。
ツールボックスの中にツールバッグ（携帯工具
入れ）があります。



■正しい運転操作

●エンジンのかけかた

1. フューエルタンクキャップのコックを、
"ON" にします。
2. フューエルコックレバーを、"ON"にします。
3. メインスイッチを、"ON"にします。
4. チェンジをニュートラルにします。
(ニュートラルランプで確認してください。)
5. チョークレバーをいっばいに上げます。
(CLOSEの位置にします。)

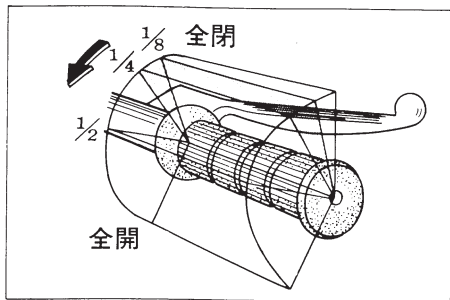
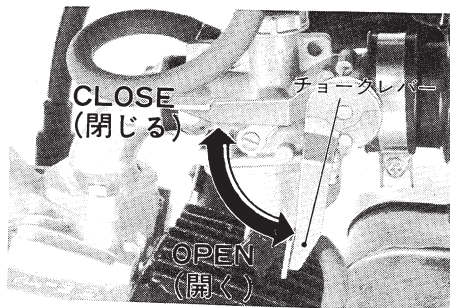
エンジンが暖まっているときは、チョークレバーを使用する必要はありません。

6. スロットルグリップを $\frac{1}{8}$ から $\frac{1}{4}$ ぐらい開き、キックします。

通常の場合はこれでエンジンがかかります。

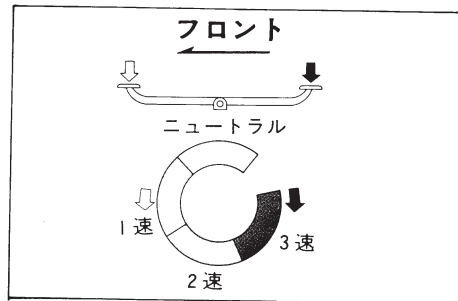
(エンジンがかからないときは、55ページ記載の要領で確認してください。)

7. エンジンがかかったら、チョークレバーを徐々に下げ、回転がスムーズになるまで暖機運転し、チョークレバーを完全に戻してから (OPENの位置にしてから) スタートします。



注意

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、せまい場所での始動は避けてください。
- 無用の空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。
- チェンジが入った状態で始動すると、飛び出しや転倒することがあります。必ずニュートラルを確認してから始動してください。



●チェンジのしかた

チェンジは、右図のような3段リターン式です。

- 変速は、必ずスロットルグリップを一旦戻してから行ないます。
- 軽くつま先で行ない、ペダルにコッソと足ごたえのあるまで確実に操作してください。
- 無理なチェンジ操作や、チェンジペダルに足を乗せたままでの走行は、チェンジ構機やクラッチ機構を痛める原因になるので避けてください。

●走りかた

- 車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。
右表はその速度範囲を示したものです。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、
燃料の節約と車の寿命をのばします。

注意

- 発進は、できるだけ静かに行ないましょう。
- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちに販売店またはホンダサービスの各地区センターで調べましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

	速 度 範 囲
1 速	0 ～15km/h
2 速	5 ～30km/h
3 速	10km/h 以上

《シフトダウンのしかた》

追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。

あまり高い速度で行なうと、エンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えます。

右表の速度内で行なってください。

	シフトダウン可能限界速度
3 速→2 速	20km/h 以下
2 速→1 速	10km/h 以下

●ブレーキの使いかた

- ・ブレーキは、**前輪後輪を同時に**使いましょう。
- ・不必要な急ブレーキは避けましょう。

注意

- ・前輪ブレーキまたは後輪ブレーキのどちらか一方のブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。
- ・雨天走行や路面が濡れている場合、急激なブレーキをかけるとタイヤがスリップして転倒の原因になることがあります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- ・ブレーキペダルに足を乗せたまま走行すると、ブレーキの引きずりをおこし、ブレーキライニングの早期摩耗の原因になるので避けてください。

《エンジンブレーキ》

スロットルグリップをもどすとエンジンブレーキがききますが、さらに強力なブレーキを必要とするときは2速，1速とシフトダウンを行います。

長い下り坂、急な下り坂などでは，前輪，後輪ブレーキとエンジンブレーキを併用してください。

注意

急激なシフトダウンは，尻振りなどの原因となります。

21ページの表にしたがって行なってください。

注意事項

- ・運転者の身を守るヘルメットや手袋・眼鏡などを着用するよう心がけてください。
- ・ブレーキレバーなどの操作部分に引掛かったり、ドライブチェーンなどの回転部分に巻き込まれたりして、運転を阻害するような服装は避けてください。
- ・ブレーキ操作やチェンジ操作に支障をきたすようなはきものは避けてください。
- ・走行中、運転車は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。
- ・急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。
- ・荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、“積み過ぎない”、“荷物は固定する”など充分注意し、安全に走行してください。
- ・エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーの一部が熱くなっています。直接触れないでください。
- ・車は水平な場所に駐車しましょう。坂道、砂利道、でこぼこな所では、サイドスタンドが不安定になり転倒するおそれがあります。
- ・車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行ないましょう。
- ・洗車時、マフラーやブレーキドラムに水を入れないでください。マフラー内部に水がたまると始動不良などの原因になることがあります。またブレーキドラムに水が入るとブレーキ効果を減じる原因になることがあります。

■ 運行前点検・定期点検

お車をご使用のかたの安全と車の事故を未然に防ぐため、道路運送車両法に準じて、**1日1回の運行前点検**と**6・12か月ごとの定期点検**を設けてあります。必ず実施してください。

点検項目の詳細は、別冊「整備手帳」をご覧ください。

点検整備数値は、58ページのサービスデータをご参照ください。

異常が認められた場合は、ご使用のかたご自身または販売店・ホンダサービスの各地区センターで必ず整備をしてください。

■ 運行前点検

運行前点検は、車を使用する人が、1日1回運転する前に実施する点検です。

- 前日の異状箇所
- ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異状な摩耗、金属片、石などの異物
- タイヤの溝の深さ
- エンジンオイル量
- 燃料の量
- 灯火装置、方向指示器
- 後写鏡の写影
- 自動車登録番号標の汚れ、損傷
- 反射器の汚れ、損傷

●前日の異状箇所の点検

運行に支障がないかを点検します。

●ブレーキの点検

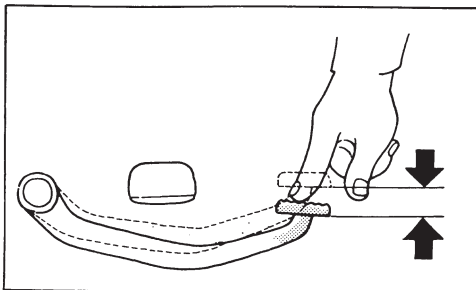
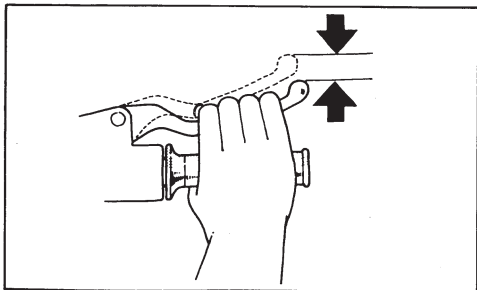
《ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合》

●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びが適当であるかを点検します。ブレーキレバーの遊びが適当でないときや、引きごたえがやわらかく感じられる場合は異常です。

●ブレーキペダルの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びが適当であるかを点検します。ブレーキペダルの遊びが適当でないときや、踏みごたえがやわらかく感じられる場合は異常です。

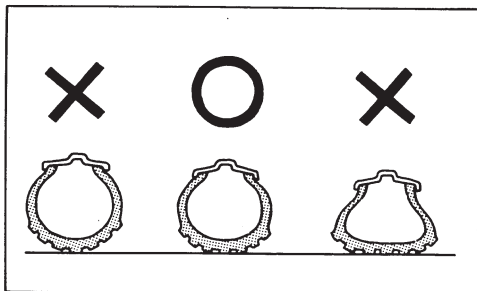


●タイヤの点検

《空気圧の点検》

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。

タイヤ接地部のたわみ状態が異常な場合は、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

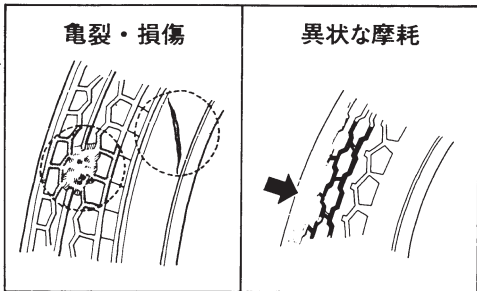


《亀裂・損傷》

タイヤの接地面や側面に、著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

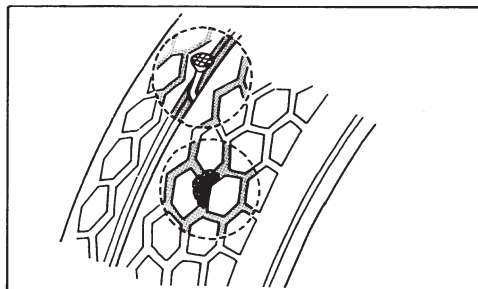
《異状な摩耗》

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。



《金属片、石などの異物》

タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



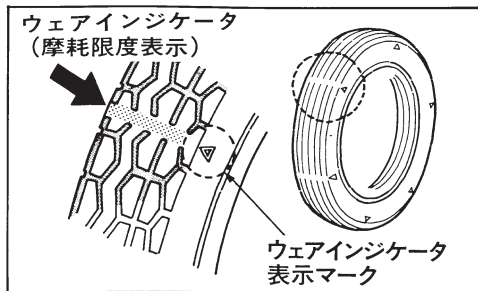
《溝の深さ》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（摩耗限度表示）により点検します。

ウェアインジケータがあらわれたらタイヤを交換してください。

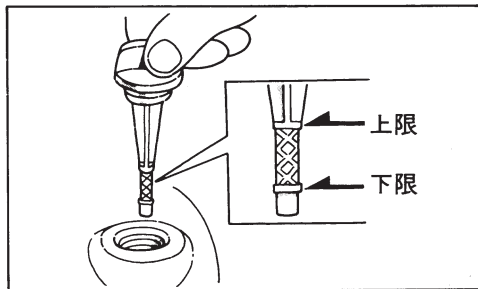
注意

- ・ 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。



●エンジンオイル量の点検

- ・平坦地で車体を垂直にして、エンジン停止 2 ～ 3 分後にエンジンオイル量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。
- ・オイルレベルゲージをねじ込まず差し込んで点検してください。
- ・オイル量が下限に近かったら、上限まで補給してください。
エンジンオイルの補給は、52 ページ参照。



注意

- ・エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

●燃料の量の点検

ガソリンが目的地まで走行するのに十分な量であるかを点検します。

●灯火装置、方向指示器の点検

《点滅具合、汚れ、損傷》

ヘッドライト、ポジションランプ、テールライト／ストップランプ、ウインカランプのスイッチを作動させて、点灯または点滅するかを点検します。

このとき、レンズに汚れや損傷がないかを点検します。

●後写鏡の写影の点検

シートに座って、正しい運転姿勢をとったとき、後方がバックミラーに正しく写るかを確認し、点検します。

●自動車番号標(ナンバプレート)の汚れ、損傷の点検

ナンバプレートに汚れや損傷がないかを点検します。また、確実に取付いているか手でさわって確認し、点検します。

●反射器の汚れ、損傷の点検

反射器に汚れ、損傷がないかを点検します。

■ 6 か月点検

定期点検は、車を使用する人が定期的に行う点検で、6 か月点検と12か月点検の2種類があります。

- ・ 6 か月点検項目には、㊶と㊷の項目があります。別冊「整備手帳」の点検整備方式の一覧表を参照してください。ここでは㊶の項目とメーカー推奨項目の一部を選んで点検要領を説明してあります。

- ㊶……点検を行うに当たって、車の構造、装置に関する基礎的な技術知識を有する人であれば、自らでも実施可能なもの。
- ㊷……点検を行うに当たって、専門的な技術知識を必要とするもの、専門的な機械、工具や測定器具を必要とするもの、装置または部品の分解、取外しを伴うもの。
- ・ 点検結果は、所定の記録用紙に記録してください。ご自身でできない項目については、販売店・ホンダサービスの各地区センターで点検を受け記録してください。

- ・ 点検結果の記録用紙は、別冊整備手帳に綴込まれています。なお、記録は1か年保存するようにしてください。
- ・ メーカー推奨項目の点検結果は、点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

注意事項

点検するときは安全に十分注意してください。

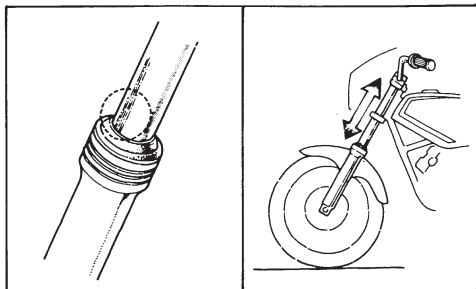
- ・ 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- ・ エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
- ・ 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
- ・ 走行して点検する必要があるときは、周囲の交通事情に十分注意してください。

●かじ取りホークの点検

《損傷》

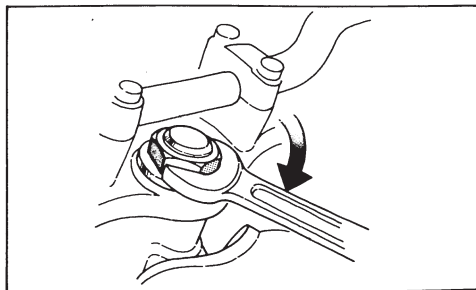
フロントホーク（かじ取りホーク）に損傷がないか目視により点検します。

また、ハンドルを上下に動かし、フロントホークの曲りによる異音がないかを点検します。



《ホークスピンドルの取付け状態》

ステアリングステム（ホークスピンドル）の締め付けナット（ステムナット）にゆるみがないかをスパナなどの工具により点検します。

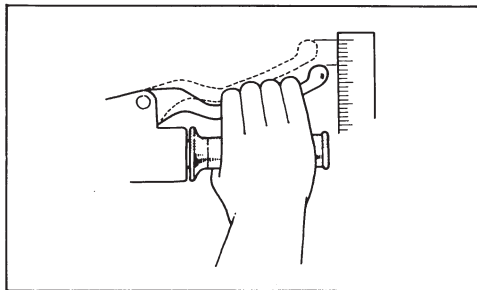


●ブレーキの点検

《ブレーキペダルの遊び》

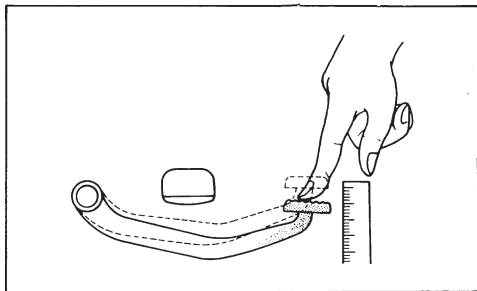
●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
遊びの調整は、46ページ参照。



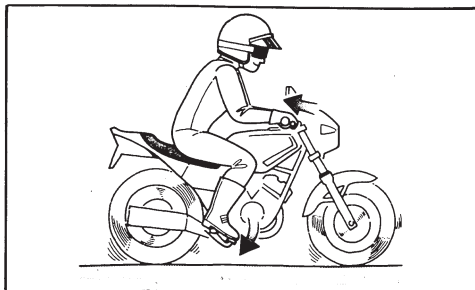
●ブレーキペダルの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
遊びの調整は、47ページ参照。



《ブレーキのきき具合》

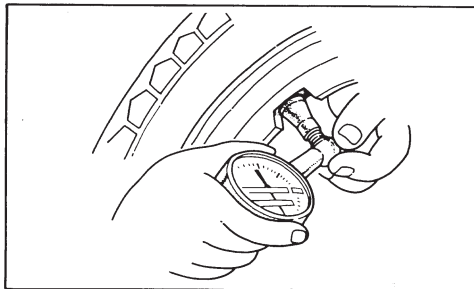
乾燥した路面で、低速走行して前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させ、きき具合が十分であるかを点検します。



●タイヤの点検

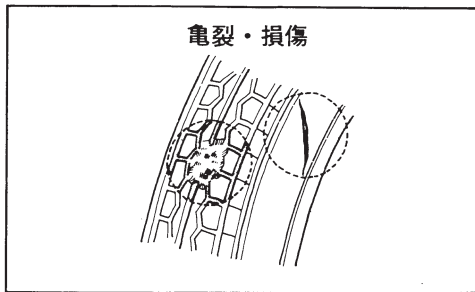
《タイヤの空気圧》

タイヤの空気圧をタイヤゲージで点検します。
空気圧は、タイヤが冷えているときに測定してください。



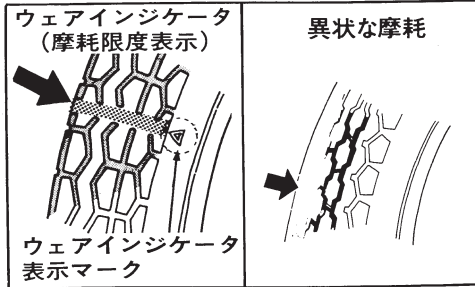
《亀裂と損傷》

タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷がないかを
目視により点検します。



《溝の深さと異常な摩耗》

- ・ 溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(摩耗限度表示)により点検します。
- ・ ウェアインジケータがあらわれたらタイヤを交換してください。
- ・ タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

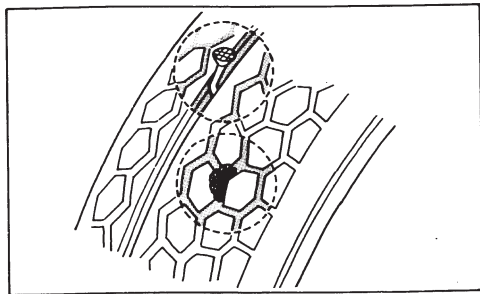


《金属片、石などの異物》

タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

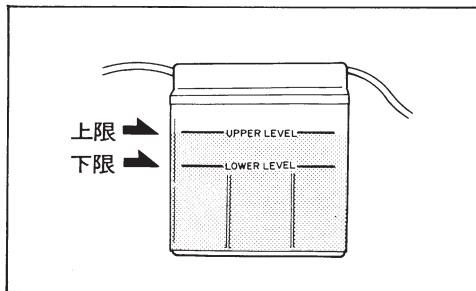
注意

- ・ 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。



● バッテリー液量の点検

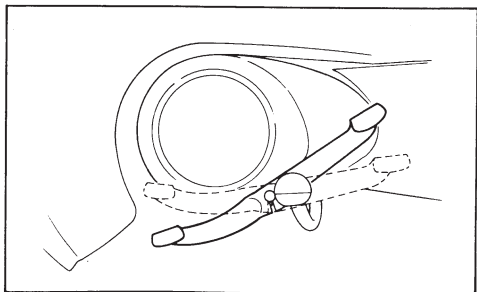
- ・ カバーを外し、平坦地で車体を垂直にします。
 - ・ バッテリー各槽の液面が上限と下限の範囲にあるかを点検します。液面が下限に近かったら、蒸留水を補給してください。
- バッテリー液の補給は、48ページ参照。



● クラッチの点検

《クラッチの作用》

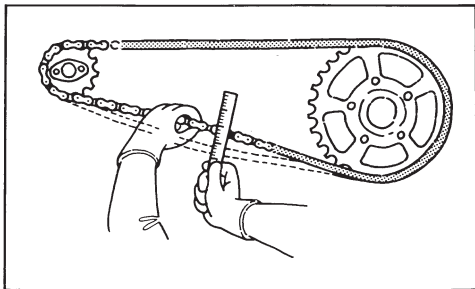
- ・キックしたとき、滑らず、踏みごたえがあるかを点検します。
- ・エンジンを始動し、アイドリング状態でチェンジを1速（ロー）に入れたとき、車が動き出さないかを点検します。
- ・スロットルを徐々に開き、エンジン回転を上げたとき、車がスムーズにスタートするかを点検します。



●ドライブチェーンの点検

《ドライブチェーンのたるみ》

- ・点検は、スタンドを立てた状態で行います。
- ・前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンのたるみが規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
また、後輪を手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するかを点検します。チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は異常です。
- ・チェーンの給油状態を点検します。給油を必要とする場合は、54ページを参照してください。



● エアクリーナエレメントの点検

エアクリーナエレメントを取出し、汚れによる詰りなどがないかを目視により点検します。

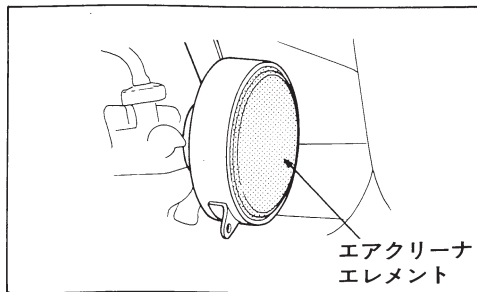
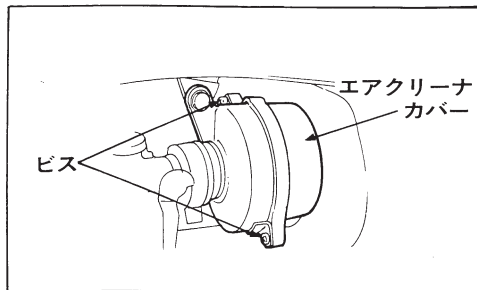
《取外し》

1. ビスを外し、エアクリーナカバーを取外します。
2. エアクリーナエレメントを取外します。

《取付け》

取付けは、取外しの逆手順で行います。

清掃の方法は、51 ページ参照。



● エンジンオイルの点検

《汚れ》

平坦地で車体を垂直にして、オイルの汚れの点検を行います。

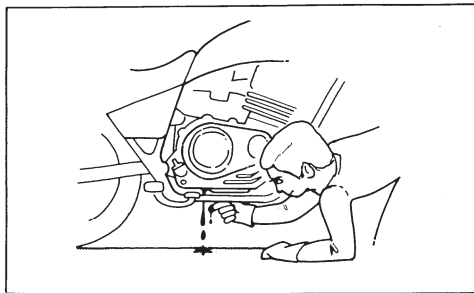
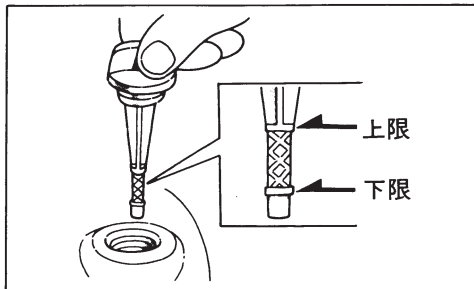
《オイルの量》

- ・ 平坦地で車体を垂直にして、エンジン停止 2 ～ 3 分後にエンジンオイル量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。
- ・ オイルレベルゲージをねじ込まず差し込んで点検してください。
- ・ オイル量が下限に近かったら、上限まで補給してください。

エンジンオイルの補給は、52ページ参照。

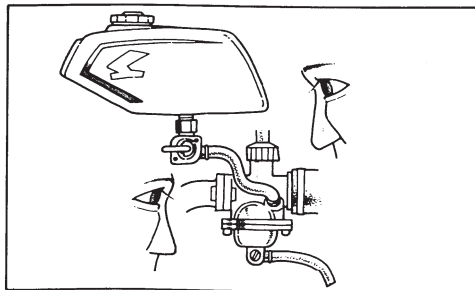
《油漏れ》

シリンダ、クランクケースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。



●燃料漏れの点検

フューエルコック、ガソリントank、ホース、パイプ、キャブレタなどからガソリン漏れがないかを点検します。



●灯火装置、方向指示器の作用の点検

- ・ヘッドライト、ポジションランプ、ストップランプおよびテールランプのスイッチを作動させ点灯具合を点検します。
また、ヘッドライトの明るさや、照射方向に異常がないかを壁面にあてるなどして点検します。
- ・左右のウインカを作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。
- ・ヘッドライト、テールランプ、ストップランプ、ウインカのレンズに変色、損傷がないか、また、取付けにゆるみがないかを点検します。

● シャシ各部の給油脂状態

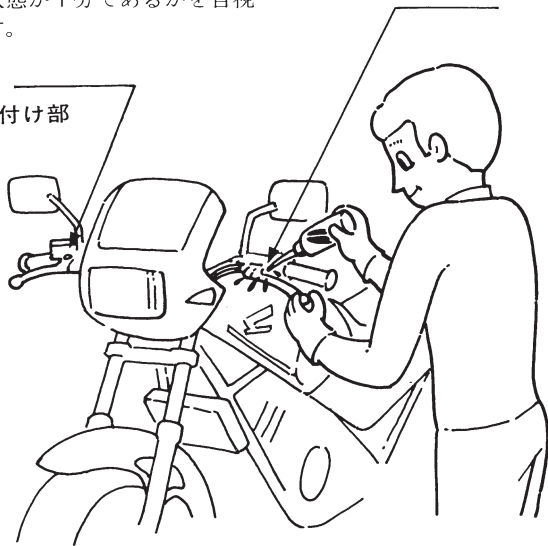
シャシ各部の給油脂状態が十分であるかを目視などにより点検します。



ブレーキ
レバー取付け部



クラッチ
レバー取付け部



■ 簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換などの整備が必要になった場合、通常行われることが多いものの代表例について、その実施方法を説明してあります。

— 注意事項 —

整備するときは安全に十分注意してください。

- ・ 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- ・ 適切な工具を使用してください。
- ・ 整備はエンジンを停止した状態で行ってください。
- ・ エンジン停止直後の整備は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

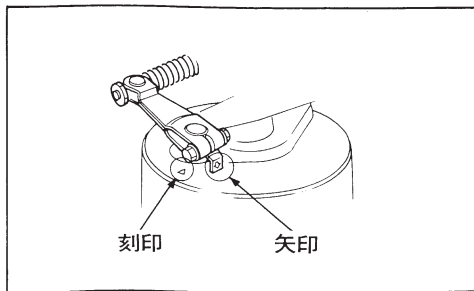
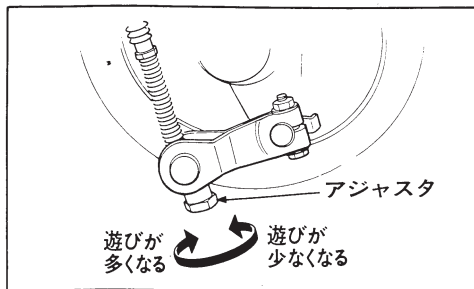
● ブレーキレバーの遊びの調整

ブレーキアーム部のアジャスタにより遊びを調整します。

・調整は、アジャスタを回して行います。
調整後は、ブレーキレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで確認します。

注意

- ・ブレーキレバーをいっぱい握って、ブレーキアームの矢印とブレーキパネルの刻印が一致する場合は、ブレーキシューの使用限界です。



●ブレーキペダルの遊びの調整

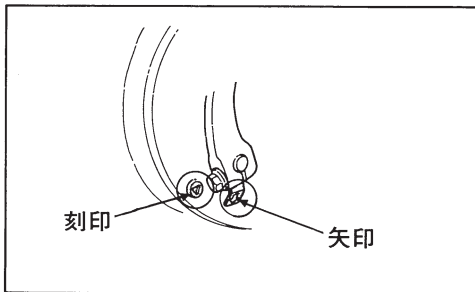
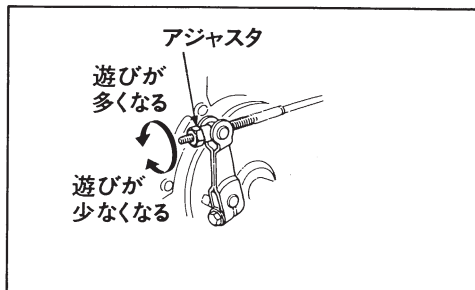
後輪ブレーキアーム部のアジャスタにより遊びを調整します。

- ・調整はアジャスタを回して行います。

調整後は、ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで押し、ペダル先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで確認します。

注意

- ・ブレーキペダルをいっぱいにして、ブレーキアームの矢印とブレーキパネルの刻印が一致する場合は、ブレーキシューの使用限界です。



●バッテリー液の補給

バッテリー液が不足している場合は、次の手順で蒸留水を補給します。

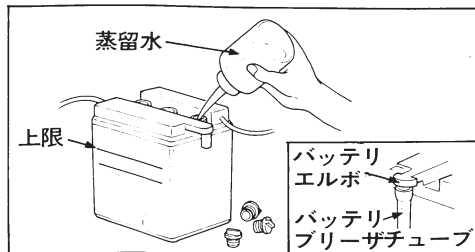
1. バッテリーブリーザチューブをバッテリーエルボから抜きます。
2. バッテリーホルダを外します。
3. ⊖（マイナス）側コードを外し、次に⊕（プラス）側コードの接続を外します。
4. バッテリーを取出し、バッテリーキャップを外した後、上限まで蒸留水を補給します。
5. 補給後は、バッテリーキャップを確実に締めバッテリーを取付けます。このとき、必ず⊕側コードを先に取付け、⊖側を次に取付けます。

注意

- ・バッテリーを取扱うときは火気を近づけないでください。
- ・バッテリー取付け後、ブリーザチューブがバッテリーエルボにしっかりと結合されているか確認してください。ブリーザチューブがかんだりつまっていると、バッテリーの内圧が高くなりバッテリーケースが破

損することがあります。車に貼ってあるラベルに従い確認してください。

- ・蒸留水を入れすぎると、こぼれて腐触の原因となります。
- ・バッテリー液は、希硫酸で目や皮膚を侵しますので十分注意してください。万一付着したときはすぐ多量の水で、少なくとも5分間以上洗浄して専門医の診察を受けてください。
- ・バッテリーを取付けるときは、コード類のかみ込みがないように注意してください。



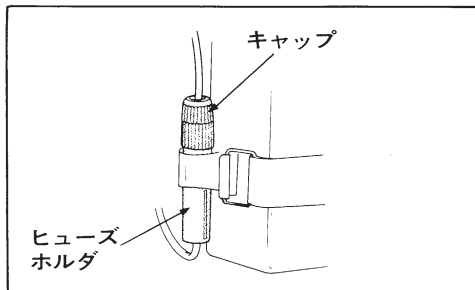
● ヒューズの交換

メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないかを点検します。

- ・ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。
- ・ヒューズは、バッテリー付近にあるヒューズホルダにセットされています。ヒューズホルダのキャップを左に回してヒューズを取外します。
- ・交換しても、すぐにヒューズが切れる場合は異常です。

注意

- ・ヒューズの取付けはキャップを確実に締付けて行ってください。



注意

- ・ 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。
- ・ 電装品類（ライト、計器など）を取付ける時は車種毎に決められている「ホンダアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。
- ・ 洗車時ヒューズホルダのまわりから水を強く吹きつけることは避けてください。

●エアクリーナエレメントの清掃、交換

《清掃》

1. エアクリーナエレメントを取外します。
2. エアクリーナエレメントをきれいな洗油で洗い、完全に乾燥させます。
3. きれいなオイルに浸し、固くしぼって取付けます。

オイル：ギヤオイル（#80～#90）

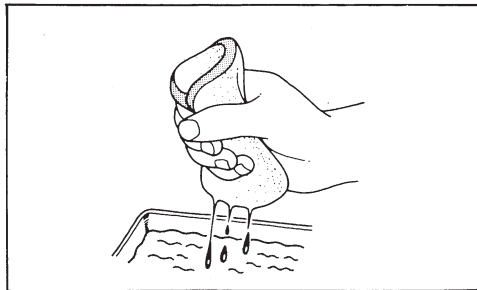
《交換》

交換は40ページの《取外し》《取付け》の手順に従って行ってください。

注意

- ・ガソリンや引火点の低い洗浄剤は、非常に燃えやすいので、エレメントの清掃には、使用しないでください。
- ・エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸って、シリンダの摩耗や出力低下を起こし、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。

- ・また、洗車時エアクリーナに水を入れないうちご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。



●エンジンオイルの補給

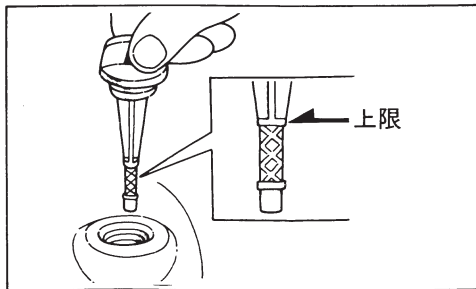
1. 平坦地で車体を垂直にします。
2. エンジン停止 2 ～ 3 分後にオイルレベルゲージを外します。
3. オイルレベルゲージをねじ込まずに差し込み、ゲージで確認しながらオイルを上限まで補給します。
4. オイルレベルゲージを確実に取付けます。

《推奨オイル》

“ホンダ純正オイル ウルトラーU (4 サイクル二輪車用)” または、API SE級の10W-30のエンジンオイル。

《交換時期》

初回：1,000km、以後：3,000kmごとです。



注意

- ・補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。
オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- ・オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。
銘柄やグレードのちがうオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。

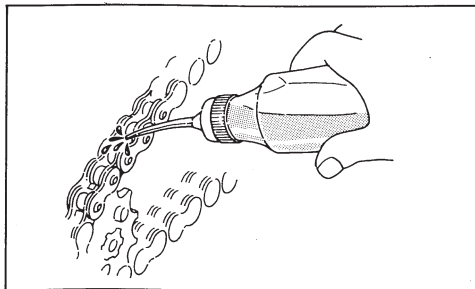
●ドライブチェーンの給油

1. スタンドを立て、後輪を浮かした状態で後輪を手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れをブラシなどで落とし、洗淨油で洗淨します。
2. 乾燥後、後輪を手でゆっくり回しながら、給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。

オイル：ギヤオイル(#80～#90)

注意

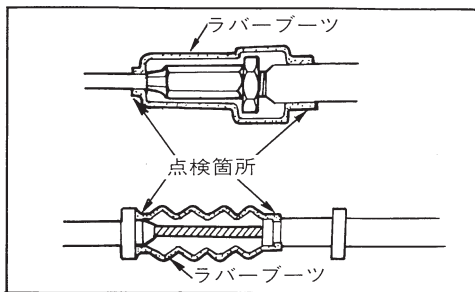
- ・チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り、汚しますのでオイルをつけ過ぎないように注意してください。



■ケーブル類のラバーブーツの点検

ケーブル類にはインナケーブル保護のため、ラバーブーツが取り付けられています。常に正しく取り付けられているか点検してください。

洗車時には、ラバーブーツに直接水をかけたり、ブラシを当てたりしないでください。汚れのひどい場合は、固くしぼった布等で拭きとるようにしてください。



■エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- ・ガソリンタンクにガソリンはありますか？
- ・エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか？
- ・ヒューズは切れていませんか？

故障の修理

- ・販売店またはお近くのホンダサービスの各地区センターにお申しつけください。
- ・むやみに修理しないで、早く販売店で点検整備をしてもらうことが、お車を長持ちさせる秘けつです。

■ 主要諸元

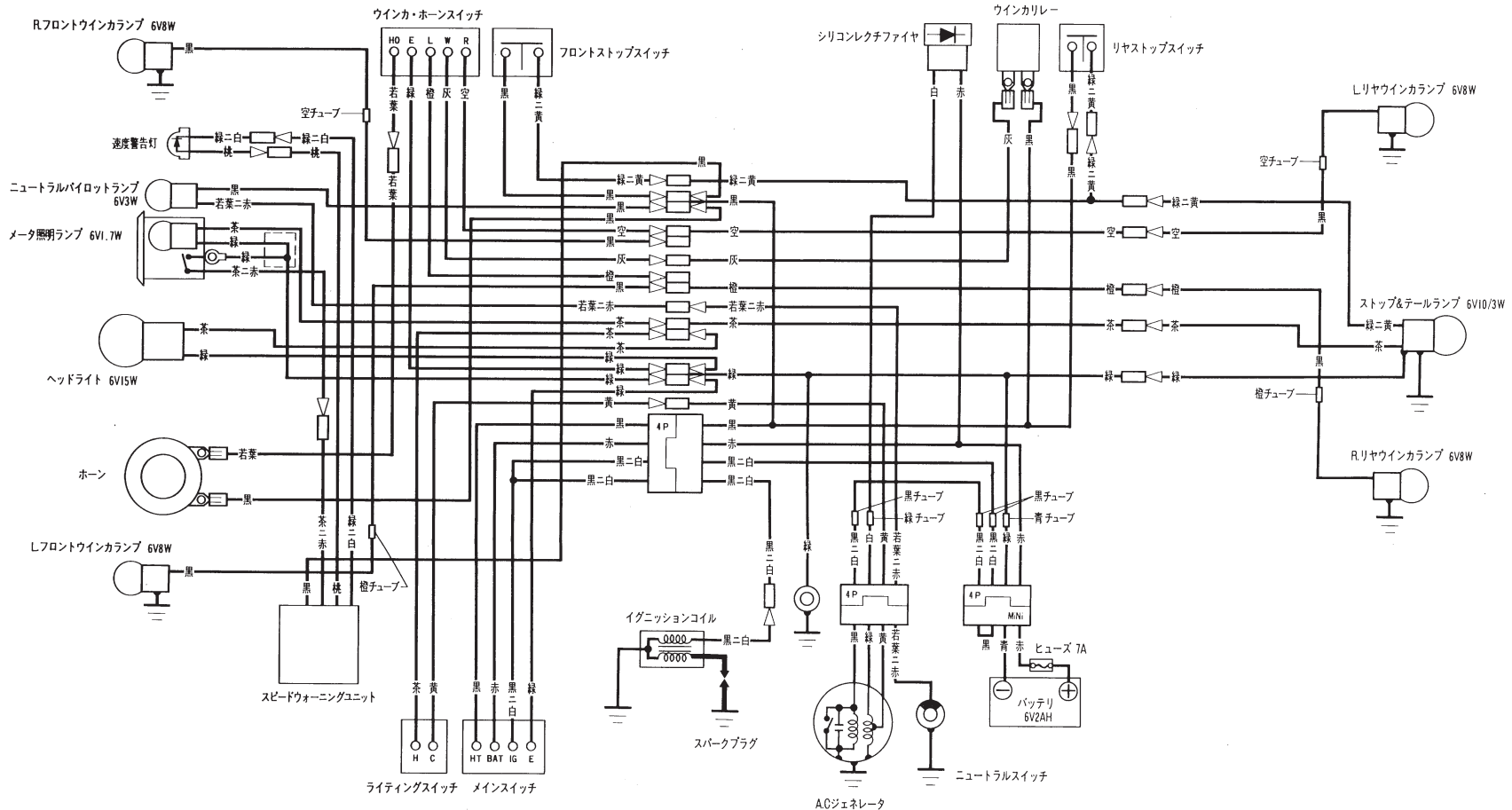
長	さ	1.340 m
幅		0.600 m
高	さ	0.845 m
軸	距	0.895 m
最 低 地 上 高		0.150 m
車 両 重 量		63 kg
タ イ ヤ		前輪 3.50-8 (2 P R) 後輪 3.50-8 (2 P R)
燃 料 消 費 率		65 km/ℓ (車速 30 km/h)
制 動 停 止 距 離		3.5 m (初速 20 km/h)
最 小 回 転 半 径		1.4 m
燃 料 タ ン ク 容 量		5.0 ℓ
総 排 気 量		49 cm ³
圧 縮 比		8.8
圧 縮 圧 力		12.0 kg/cm ² - 1,000 rpm
最 高 出 力		2.6 PS / 7,000 rpm

最 大 ト ル ク	0.3kgm/5,000rpm
点 火 形 式	マグネット点火
点 火 時 期	BTDC30°(固定)
点 火 プ ラ グ	C 5 H A (N G K) U16FS-L (日本電装)
蓄 電 池 (バ ッ テ リ)	6 V - 2 A h
エ ン ジ ン オ イ ル 容 量	0.8 ℓ
ク ラ ッ チ 形 式	湿式多板式
変 速 機 形 式	常時嚙合式
変 速 機 操 作 方 式	左足動式
変 速 比 1 速	3.181
2 速	1.823
3 速	1.190
機関から変速機までの減速比	3.722
第 1 減 速 比 (チェーン)	3.083
乗 車 定 員	1 名

■ サービスデータ

ブレーキレバーの遊び		10～20mm	
ブレーキペダルの遊び		10～20mm	
タイヤ空気圧		前 輪	後 輪
	1 人 乗 車	1.0kg/cm ²	1.25kg/cm ²
エンジンオイルの量	全 容 量	0.8 ℓ	
ドライブチェーンのたるみ		10～20mm	
ヒューズ		7 A	
点火プラグの点火すきま		0.6～0.7mm	
エアクリーナエレメント	形 式	ウレタン式	

配線図



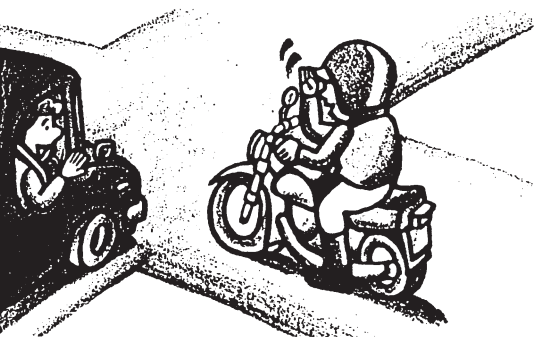
スイッチ切替接続表

メインスイッチ					ウィンカスイッチ				ホーンスイッチ			ライティングスイッチ		
	HT	BAT	IG	E		R	W	L		HO	E		H	C
OFF				○	R	○	○		FREE			OFF		
ON	○	○			(N)				PUSH	○	○	ON	○	○
					L		○	○						

0030Z-165-6700

バルブ(電球)の交換の場合は必ず正規のワット数のものを使用してください。

身につけよう。安全運転の正しい知識と良いマナー。

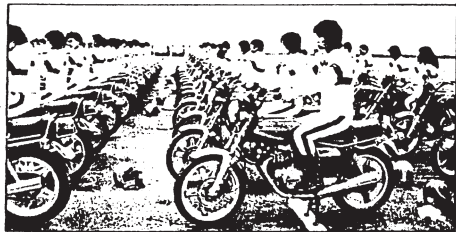


出合頭の事故に注意。見通しのわるい交差点では必ずいったん停止・徐行を習慣づけましょう。(正しい安全運転の知識は、小冊子「セーフティポイント」で詳しく解説しています。一読ください。)

ヘルメットを正しくかぶりましょう。

S、SGマークのついた乗車用ヘルメットをかぶり、あごひきは正しくめましょう。

●HMS(ホンダモーターサイクルリスト・スクール)の訓練風景。



楽しいモーターサイクルの世界をひろげるために——

●乗車の基本から安全な乗り方まで、幅広い知識・技術を身につけた「安全運転普及指導員」がお待ちしています。何なりとお気軽にご相談ください。

●ツーリングなど楽しい活動を通じて安全の輪をひろげるグッドライダーの集まり「セーフティクラブ」にご参加ください。各種の催しものへのご招待をはじめとする数々の特典があります。

●モータースポーツの話題から安全運転の基本的な知識・技術まで、魅力ある情報を満載してお届けする「セーフティ2&4」の定期購読をおすすめします。

※上記の事柄に関するお問合わせ・お申込みはホンダ販売店かホンダサービスの各地区センターまで。

●学校や企業、グループなどで初心者や指導者を対象とする「安全運転講習会」をお考えの場合は交通教育センターのご利用をおすすめします。詳しくは下記へお問合わせください。

交通教育センター〈レインボー〉 埼玉県比叡郡川島町出丸下郷53-1 0492(97)4111

鈴鹿サーキット交通教育センター 三重県鈴鹿市稲作町7992 0593(78)0387

交通教育センター〈福岡〉 福岡県糟郡新宮町大字下ノ府字塩田599-092(963)1424



ホンダ安全運転普及本部

〒150東京都渋谷区神宮前6-27-8

北海道地区事務局	札幌市中央区北一条西7-1	011(251)9231
東北地区事務局	仙台市上郷1-11-2	022(25)16171
関東地区事務局	東京都渋谷区神宮前6-27-8	03(498)3251
中部地区事務局	名古屋市中区千代田1-7-2	052(261)2671
関西地区事務局	大阪市北区南堀町7-31	06(313)1171
九州地区事務局	福岡市博多区祇園町8-7	092(291)5131



30165612
00X30-165-6120

(HSG) (KH)
H6008407E
PRINTED IN JAPAN